

月例会ダイジェスト【105】

病気になっても離職せず、治療をしながら働き続けるための仕組みづくりが社会で進められている。しかしその両立支援の枠組みを考える過程において、支援をする側だけでなく、受ける側の視点は取り入れられているのだろうか。オンラインで開催された11月の月例会は「両立支援の新发展：応援団／日本代表と学ぶ【がん防災と希望】」として、両立支援の考え方をあらためて整理した。コーディネーターは小島健一氏（鳥飼総合法律事務所）、武藤剛氏（北里大学）が務めた。

最初に武藤氏がイントロダクションとして「大学病院の両立支援専門外来からみえる両立の実態と展望」を講演。その中で「受援」「がん防災（災害対策のようにがんに備えておくこと）」という2つのキーワードを紹介した。1つ目の「受援」では、会社に両立支援の仕組みがあっても、病気のことを話したくないなどの理由で、支援を受けることに抵抗を感じている人が一定数いることや、就労する際に病気や障害のことを会社に伝えるべきか悩む若い世代の例を出し「受援側の視点についても、この場で一緒に考えたい」と前置きした。

次に中小企業で両立支援の取組みが十分に広まっていないことや、職場復帰後に求められる配慮の捉え方や仕組みについても、企業によって違いがあることを実感として挙げ「がん防災の話から、会社の仕組みを変えていくポイントを学びたい」と述べた。

続いて廣田純子氏（一社・がんと働く応援団）による「職域で『がんと働く』を実践するポイント」が始まった。廣田氏は「生涯でがんになる確率は2人に1人」と、がんが全ての人に関係する病気であることを提示。就労世代のがん患者の増加が予想される中、企業のがん対策（がん防災）が重要になってくることを訴えた。

また、がんを告知された社員がショックを受けてすぐ離職してしまわないよう、上司や人事担当者も事前の備えが必要であることを述べ、担当者が把握しておくべき「がん罹患した社員が抱える3つの不安（治療・お金・仕事）」について説明した。

最後に主治医の意見書や「がん相談支援センター」などの外部リソースをうまく活用する、などのポイントを紹介。「がんは誰でもなり得る病気。企業もがんについて正しい知識を持ち、社員ががんになったときのために備えていただければと思う」と締めくくった。

最後はパラクライミング日本代表の渡邊雅子氏が、中学・高校の同級生で友人の鈴木真理恵氏とともに登場。「義足の白鳥は、世界に舞い上がる」というタイトルのもと、渡邊氏と鈴木氏の“友人同士の会話”という形式で、受援側の立場から思いを語った。

渡邊氏は年表で自身の生い立ちを紹介した。5歳の時に左脚大腿骨に小児がん（骨肉腫）を発症後、患肢温存で松葉杖を使いながら生活していた子ども時代の話の中で、自然に接してくれたクラスメートたちへの感謝を表した。また社会から受けた“配慮”について、渡邊氏の所感や考えを述べた。自らの意思で左股関節離断手術を受け、かねてから興味があったパラクライミングで練習を重ねるうちに、日本代表として国際大会に出場するまでになった経緯を語った時は「悩みを話したり、相談したりできる人たちがいたからこそ、自分の考えで人生の重大な決断をすることができた」と語った。

がんは寛解しているが潰瘍性大腸炎であることが判明し、現在も治療中だという渡邊氏は、クラウドファンディングで制作したドキュメンタリー『義足の白鳥』の上映会や、下肢切断者や義足障害者に向けたパラクライミング練習会を実施するなどの活動を続けている。鈴木氏は「本人の思いやその可能性を認め、できないところを周りがサポートする。そんな環境があれば、その人らしい生き方ができるのではないかと思う」と述べた。渡邊氏はクライミングでロープの安全確保を行うビレイヤーをたとえに出し「私たちはビレイヤーがいてくれるから、15mの壁に安心して挑むことができる。社会の中に居場所があることは、誰にとっても一番の生きる力になるのでは。今日お集まりの皆さんは、まさに働きたい人たちのビレイヤー。これからも活躍いただけたらうれしい」とメッセージを送った。

ディスカッションでは、治療を乗り越えて職場復帰したあとにがんが再発し、離職した社員の例が参加者から寄せられた。廣田氏は「相手の話に耳を傾け、寄り添う姿勢を見せてほしい」とコメント。また渡邊氏の「病気を告げられた時は確かにつらかったが、周りに話を聞いてくれる人たちがいたおかげで、何度も立ち上がることができた」という言葉からも、まずは本人に寄り添い、傾聴する姿勢が大切であることがうかがえた。そしてその人らしく生きられるような支援の在り方を考えることが、これからの両立支援に求められるのかもしれない。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>